

1. インストール説明書に JAI のインストールを追加しました。

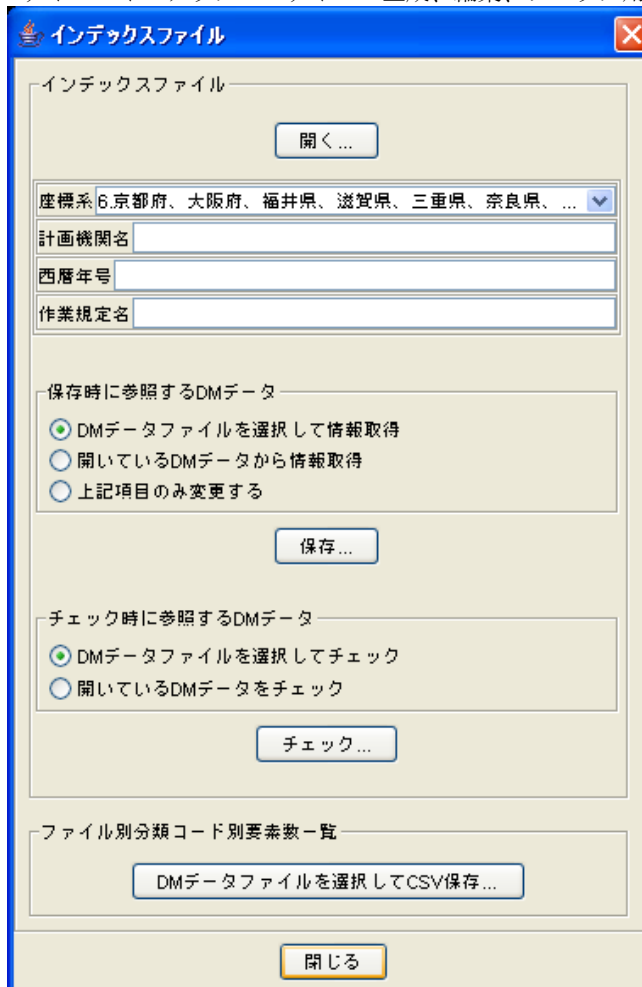
バージョン 2.01 から TIN に TIFF などのオルソ画像を貼り付ける機能を追加しましたが、TIFF をリードするために JAI (Java Advanced Imaging) をインストールする必要があります。詳しくはインストール説明書を参照してください。

2. インデックスファイルと DM ファイルの整合性チェック

メニュー[ファイル]-[インデックスファイル]に、インデックスファイルと DM データファイルの整合性をチェックする機能を追加しました。

以下、操作説明書からの抜粋です。

DM データファイルのインデックスファイルの生成、編集、チェック用のダイアログを開きます。



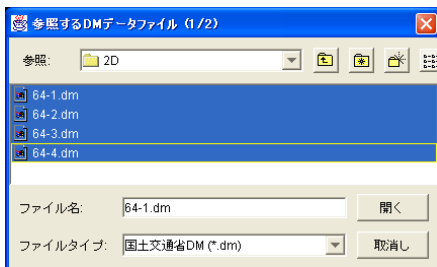
【開く】インデックスファイルを開きます。拡張子は特に設定していません。開いたインデックスファイルの座標系などをダイアログに表示します。また、インデックスファイルの内容をレポートパネルに表示します。

インデックスファイル D:\work\test\z.idx
 座標系 : 2
 計画機関名 : []
 図郭数 : 3
 図郭識別番号レコード数 : 1
 使用分類コード数 : 44
 転位処理フラグ : 0
 間断処理フラグ : 1
 西暦年号 : []
 作業規定名 : []
 図郭識別番号 1 : []
 図郭識別番号 2 : []
 図郭識別番号 3 : []
 使用分類コード:2101 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:3 使用データタイプ:線
 使用分類コード:2203 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:3 使用データタイプ:線
 使用分類コード:2214 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:3 使用データタイプ:線
 使用分類コード:3001 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:3 使用データタイプ:線
 使用分類コード:3002 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:3 使用データタイプ:線
 使用分類コード:3003 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:3 使用データタイプ:線
 使用分類コード:3522 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:0 使用データタイプ:点
 使用分類コード:4201 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:0 使用データタイプ:点
 使用分類コード:4202 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:0 使用データタイプ:点
 使用分類コード:4204 標準の分類コード:同じ 方向規定区分:0 座標次元区分:0 使用データタイプ:点

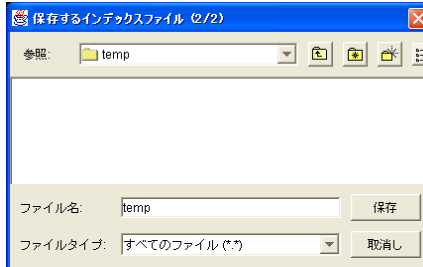
【保存】 インデックスファイルを保存します。以下の[保存オプション]に従った内容で保存します。

【DM データファイルを選択して情報取得】 最初に DM データファイル選択用のダイアログを表示します。選択された DM データファイルから分類コードなどの情報を読み取り、インデックスファイルを保存します。方向規定区分は0をセットします。

(1) DM データファイルを選択



(2) 保存するインデックスファイルを選択



【開いている DM データから情報取得】 開いている DM データファイルから分類コードなどの情報を得て、インデックスファイルを保存します。DM データファイルが開かれている場合、このオプションがつかえます。方向規定区分は0をセットします。

【上記項目のみ変更する】 ダイアログに表示している項目のみ変更し、他は開いたインデックスファイルの内容そのまま、インデックスファイルを保存します。インデックスファイルを開いた場合にこのオプションが使えます。

【チェック】 インデックスファイルと DM データファイルの整合性をチェックします。インデックスファイルが開かれている場合に有効です。DM データが開かれているものあるいは DM データファイルを選択することで指定できます。次の内容をチェックします。

- DM データファイルの図郭識別番号がインデックスファイルにない場合
- インデックスファイルの図郭識別番号が指定された DM データファイルにない場合
- DM データファイルの要素で、インデックスファイルの使用データタイプにない場合
- インデックスファイルの使用データタイプが指定された DM データにない場合

チェック終了後、チェック結果のダイアログを表示します。

図郭識別番号	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号	図郭識別番号
081	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
082	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
083	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
084	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
085	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
086	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
087	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
088	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
089	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号
090	hms14.ksh	インデックスファイルに使用データタイプなし	図郭識別番号	図郭識別番号

【ファイル別分類コード別要素数一覧】 ファイル別分類コード別の要素数を表にした CSV ファイルを作成します。どの DM ファイルにどんな要素が含まれているか、一覧で見ることができます。

	A	B	C	D	E	
1		test0	test1	test2	test3	
2	2101	332	508	323	799	真幅道路(街区線)
3	2103	27	14	12	19	徒歩道
4	2106			46	5	庭園路等
5	2203	46	48	36	177	道路橋
6	2205	18	10			徒橋
7	2211					横断歩道橋
8	2213		8	12	51	歩道
9	2214	22	93	5	310	石段
10	2219		4		91	道路のトンネル
11	2226				10	分離帯
12	2301				6	普通鉄道
13	2401				3	鉄道橋(高架部)
14	3001	214	389	190	932	普通建物
15	3002		2	2	9	堅ろう建物
16	3003	7	17	17	26	普通兼壁倉

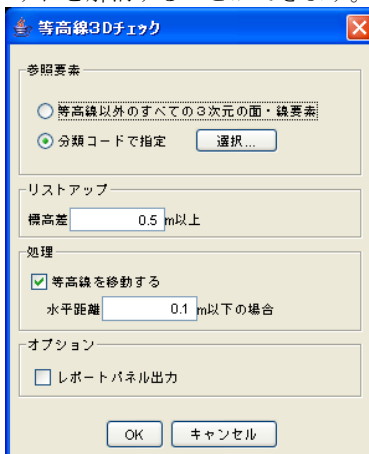
目的別に使い方を説明します。

- インデックスファイルを新規に作成したい
 1. 座標系を選択し、計画機関名などを入力します。
 2. 「DM データファイルを選択して情報取得」あるいは「開いている DM データファイルから情報取得」を指定し、「保存」ボタンでインデックスファイルを新規作成します。
- インデックスファイルのインデックスレコード(a)を修正したい
 1. 「開く」ボタンでインデックスファイルを開きます。
 2. 計画機関名など修正します。
 3. 「上記項目のみ変更する」を指定し、「保存」ボタンでインデックスファイルを保存します。
- インデックスファイルのインデックスレコード(b) (c)を DM データファイルから設定したい
 1. 「開く」ボタンでインデックスファイルを開きます。
 2. DM データファイルを選択して情報取得」あるいは「開いている DM データファイルから情報取得」を指定し、「保存」ボタンでインデックスファイルを保存します。
- インデックスファイルと DM データファイルの整合性をチェックしたい
 1. 「開く」ボタンでインデックスファイルを開きます。
 2. 「DM データファイルを選択してチェック」あるいは「開いている DM データをチェック」を指定し、「チェック」ボタンでチェックします。

3. 等高線と他の要素の標高値ずれ修正

メニュー[チェック]-[等高線 3D チェック]に、等高線と他の要素との標高値のずれを修正する機能を追加しました。以下、操作説明書からの抜粋です。

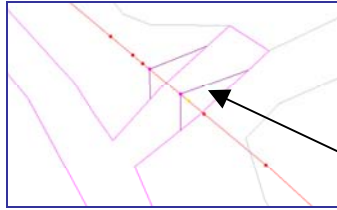
等高線と等高線以外の 3 次元面・線要素について、交差している箇所での標高値のずれを検出します。メニュー[チェック]-[3D チェック]と異なり、等高線と他の要素との組み合わせで標高値のずれに注目します。また、等高線の交差点を移動させ、ずれを解消することができます。



【分類コードで指定】 等高線と交差する面・線要素を取得分類コードで指定します。

【標高差】 等高線と 3 次元要素との交差点での標高差が指定された値以上のケースをリストアップします。

リストアップした面・線要素で、近くに等高線と同じ高さとなる線分があれば、そこへの線を 3D 表示します。



等高線上で交差を示す点から真幅道路に水平な線を表示しています。
 選択状態で赤く表示されているのが等高線です。

【等高線を移動する】等高線と交差する要素について、近くに同じ高さの線分があれば(上図参照)、等高線がそこを通るように変更します。以下のような処理を行います。

- (1) 交差点と同じXY座標の点を等高線に挿入する
- (2) (1)で挿入した点を、交差した要素上に移動する
- (3) 交差した要素にも(2)と同じ点を挿入する

【水平距離】交差点のXY座標と移動先のXY座標の最大の水平距離を指定します。
 指定された距離より大きい移動は行いません。

等高線を移動する場合、先に移動処理を行い、交差点での標高差リストアップを後に行ないます。
 上図の線を[ファイル]-[チェックリスト保存]-[チェックリスト保存(DXF)]メニューで、ポリラインとして出力でき、等高線編集の参照とすることができます。

4. チェックリスト DXF 保存に[確認リスト]パネル情報を追加

[ファイル]-[チェックリスト保存]-[チェックリスト保存(DXF)]メニューで、[確認リスト]パネルの点とポリラインも出力するオプションを追加しました。

以下、操作説明書からの抜粋です。

チェックメニューでリストアップした問題点のテキストや座標(点)をファイル出力します。「チェックリスト保存(テキスト)」では、「チェックリスト」パネルに表示しているテキストを全てテキストファイルに保存します。その下の3メニューは[チェックリスト]パネルにリストアップされている項目の座標を保存します。DXFファイルのポイントエンティティあるいは円エンティティ、NIF2フォーマットのシンボルおよびJSP・SIMA-DMフォーマットの要素として保存します。

DXFでは[チェックリスト]パネルの情報はレイヤー”0”で出力します。[チェックリストのポリライン]は、チェックリストパネルに対応する3D表示で位置を示す点と関連する線が表示されている場合、使用できます。この線をポリラインエンティティとして保存します。同様に、[確認リスト]パネルの情報もレイヤー”1”に保存できます。

NIF2ではダイアログで指定されたレイヤーとラインタイプで出力します。

JSP・SIMA-DMでは、ダイアログで指定された分類コードで出力します。左下と右上座標は、問題点を囲む矩形を出力します。

